

授業科目	配当時期 単位数 時間数	1 年前期 1 3 0	講義担当者 前田淳子 (実務経験有)
看護学概論			
授業目標			
看護実践の基礎となる看護の概念、看護の目的、看護の役割・機能、看護理論を学び、看護の本質を理解する			
ディプロマポリシーのキーワード			
看護専門職としての責任の自覚			
探求心	主体的な学び		
授業の流れ			
回	学習内容		方法
1	看護への導入（1）	看護って何だろう 科目のガイダンス	講義
2	看護とは、看護の定義、看護の本質		講義
3	看護の歴史		講義
4・5	看護理論（グループワーク）		講義
6・7	看護理論（グループワーク）		演習
8・9	発表	まとめ	演習
10	看護の対象の理解		講義
11	国民の健康状態と生活		講義
12	看護の提供者		講義
13	看護の提供のしくみ（1）		講義
14	看護の提供のしくみ（2）		講義
15	まとめ		講義
(実践的な教育内容)			
総合病院における臨床経験に基づき、看護の本質と看護の対象である人間について学び、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能が理解できるように授業を行う。			
受講上の注意			評価方法
看護学概論は「看護とは何か」という看護の概念を学問的に捉える看護学入門の科目です。看護実践の基礎となる、看護の本質、看護の役割・機能、看護の方法論等について学び、看護に対して関心を持ち自分なりの考えが持てるよう主体的に学習してください。			試験：100%
教科書・参考書等			
教科書 医学書院 系統看護学講座 専門 看護学概論 基礎看護学Ⅰ			

授業科目	配当時期 1 年後期 単位数 1 時間数 3 0	講義担当者 岡本 美奈 (実務経験有)
授業目標		
対象の身体状態に関する情報を系統的に収集し、看護実践に不可欠なフィジカルアセスメントの技術を習得する		
ディプロマポリシーのキーワード 科学的根拠 看護実践力 探究心・主体的な学び		
授業の流れ		
回	学習内容	方法
1・2	フィジカルアセスメントとは	講義
3	バイタルサインの観察とアセスメント：体温	講義
4	バイタルサインの観察とアセスメント：脈拍・呼吸	講義
5	バイタルサインの観察とアセスメント：血圧	演習
6・7	バイタルサイン測定技術演習	講義
8・9	系統別フィジカルアセスメント：呼吸器系	講義
10	系統別フィジカルアセスメント：循環器系	講義
11	系統別フィジカルアセスメント：腹部	講義
12	系統別フィジカルアセスメント：筋・骨格系	講義
13	系統別フィジカルアセスメント：神経系	演習
14・15	フィジカルアセスメント技術演習 (実践的な教育内容)	演習
総合病院における病棟と手術室勤務経験に基づき、自らの技術を活かして情報を多角的に集め、患者の健康状態をアセスメントする技術が修得できるように授業を行う。		
受講上の注意	評価方法	
患者さんの身体状況を理解するフィジカルアセスメントは、看護ケアを行うための重要な技術です。確実に身につけましょう。	試験：60% 技術試験：30% レポート：10%	
教科書・参考書等		
教科書 茂野香おる他著.系統看護学講座.基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ.医学書院		
参考書 守田美奈子他著.看護のためのフィジカルアセスメント.インターメディカ		

授業科目	配当時期 1 年前期 単位数 1 時間数 3 0	講義担当者 藤村澄子 (実務経験有)
看護共通基本技術論		
授業目標		
看護技術の概念と特性について学び、看護技術習得の重要性を理解し、日常生活援助に共通する感染防止の技術、安全確保の技術を習得する		
ディプロマポリシーのキーワード		
看護実践力 看護専門職としての責任の自覚 探究心 主体的な学び		
授業の流れ		
回	学習内容	方法
1	看護技術とは何か	講義
2	感染とその予防の基礎知識、誤薬防止	講義
3	標準予防策（スタンダードプリコーション）	講義
4	感染経路別予防策	講義
5	洗浄・消毒・滅菌、無菌操作	講義
6	感染性廃棄物の取り扱い	講義
7	針刺し予防策、医療施設における感染防止	講義
8	スタンダードプリコーション	演習
9	（手洗い・マスク・手袋・手指消毒・ガウン）	
10	安全確保の基礎知識、誤薬防止	講義
11	チューブ類の事故防止	講義
12	患者誤認防止、転倒・転落防止	講義
13	薬剤・放射線暴露の防止	講義
14	KYT学習	GW
15		
(実践的な教育内容)		
大学病院における多くの臨床経験に基づき、看護技術習得の重要性を理解し、日常生活援助に共通する感染防止の技術、安全確保の技術が習得できるように授業を行う。		
受講上の注意	評価方法	
看護の対象者、そして看護を提供する自分自身を守るための感染予防と医療安全についてはあらゆる看護技術を支える要素である。自ら学び考えるようになって下さい。	試験：80％ 課題：20％	
教科書・参考書等		
教科書 有田清子他著.系統看護学講座.基礎看護技術Ⅰ.医学書院 参考書 竹尾恵子監修.看護技術プラクティス.学研		

授業科目	配当時期 1 年前期 単位数 1 時間数 3 0	講義担当者 中西 知佐子 (実務経験有)
生活援助技術論Ⅰ		
授業目標		
日常生活援助技術である環境整備、活動・休息援助技術について基礎知識を学び、安全・安楽に実施できる技術を習得する。		
ディプロマポリシーのキーワード		
看護実践力 看護専門職としての責任と自覚 探究心 主体的な学び		
授業の流れ		
回	学習内容	方法
1	環境調整の援助の基礎知識	講義
2	基本的活動の援助	講義
3・4	ベッドメイキング	演習
5・6	体位変換	演習
7・8	臥床患者のシーツ交換	講義・演習
9・10	移動（歩行・移乗・移送）	演習
11・12	移動（歩行・移乗・移送）	演習
13・14	環境整備	演習
15	睡眠・休息の援助	講義
(実践的な教育内容)		
総合病院での病棟勤務と特別養護老人ホームでの勤務経験に基づき、日常生活援助技術についての基礎知識を学び、安全・安楽に実施できる技術が習得できるように授業を行う。		
受講上の注意	評価方法	
環境調整技術は、常に全ての看護学実習で必要となる技術です。対象にとってのあんぜん・安楽な環境調整技術習得を目指し、主体的に学習をすすめてください。	筆記試験：90％ 課題レポート：10％	
教科書・参考書等	教科書 有田清子他著. 系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ. 医学書院 参考書 竹尾恵子監修. 看護技術プラクティス. 学研	

授業科目	配当時期	2 年前期	講義担当者
在宅看護概論	単位数	1	福井由紀子
	時間数	1 5	(実務経験有)
授業目標			
地域・在宅看護では、予防から看取りまで長い期間を通して暮らしを支える為に、社会保障制度に基づいた看護サービスを提供する。この科目では、地域・在宅看護の実践にあたり、知っておくべき法制度について学ぶ。			
ディプロマポリシーのキーワード			
地域社会 健康課題 健康と生活の質 多職種連携・協働			
授業の流れ			方法
回	学習内容		方法
1	介護保険制度		講義
2	介護保険精度		講義
3	医療保険制度		講義
4	訪問介護制度		講義
5	訪問看護制度		講義・GW
6	権利擁護		講義
7	暮らしの中で看護する心がまえ		講義
8	終講試験		
(実践的な教育内容)			
総合病院での病棟勤務経験に基づき、地域看護活動における在宅看護の位置づけと在宅看護の目的やその制度について理解できるように授業を行う。			
受講上の注意			評価方法
地域・在宅看護の法制度のところは、国家試験でも問われる頻度が高い分野です。しっかり理解できるよう、予習・復習に努めてください。提出物が評価の20%を占めますので、提出忘れのないようにしてください。			試験：80% 授業後のレポート4回、1回5点 20%
教科書・参考書等			
教科書 秋山正子他著、系統看護学講座 地域・在宅看護の基礎、医学書院 河原加代子著：系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院			

授業科目	配当時期	2 年後期	講義担当者
在宅看護支援論演習	単位数	1	福井由紀子
	時間数	1 5	(実務経験有)
授業目標			
在宅で療法する対象とその家族の生活の質を維持・向上するための思考過程（看護過程）と在宅看護に特有な在宅看護技術を習得する			
ディプロマポリシーのキーワード			
科学的根拠 健康と生活の質			
授業の流れ			
回	学習内容		方法
1	地域・在宅看護過程の展開		講義
2	基本情報・アセスメントの書き方		講義
3	訪問時のマナー		講義
4	基本情報・アセスメントの個別指導		個別指導
5・6	事例の解説、実習記録の説明（行動計画・日々の記録）		講義
7・8	経営栄養技術演習		演習

授業科目	配当時期	2 年前期	講義担当者
成人看護学概論	単位数	1	瀬良垣 香
	時間数	1 5	(実務経験有)
授業目標			
成人期にある対象の看護を実践するために、成人のライフステージにおける身体の諸機能の変化、心理的・社会的発達課題やライフスタイルがもたらす健康障害の概要について「生活者」の視点を踏まえながら学習する。			
また、成人期における看護の理念や概念が理解でき、成人の特徴に応じたアプローチの必要性及び健康の保持・増進・疾病予防の方法について学習する。			
ディプロマポリシーのキーワード			
対象の全人的理解	価値観や主体性の尊重		
探求心	主体的な学び		
授業の流れ			
回	学習内容		方法
1	シラバス説明 成人の理解に向けての統計		講義
2・3	第1章 成人と生活 A対象の理解 B対象の生活		講義
	第2章 生活と健康 A成人を取り巻く環境 B生活と健康を守りはぐくむシステム		
4・5	第3章 成人への看護アプローチの基本 A生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 B症状マネジメント C健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 D人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ		講義
6	Eチームアプローチ F看護におけるマネジメント G倫理的判断 H意思決定支援 I家族支援		
7	第4章 ヘルスプロモーションと看護 第5章 健康をおびやかす要因と看護		講義
(実践的な教育内容)			
特定機能病院における長年の臨床経験による幅広い分野での看護経験と指導経験に基づき、成人各期の特徴や固有の健康問題について学び、成人看護学の基礎となる考え方やアプローチについて理解できるように授業を行う。			
受講上の注意			評価方法
成人期はライフサイクルの中で最も長い期間で、身体的・精神的背景だけでなく社会的役割の変化が大きい時期でもある。そのことが成人期にある人々の健康にどのように影響しているか理解できるようにする。 理論についてはその都度参考書を提示する。			試験：100%
教科書・参考書等			
教科書 医学書院 成人看護学総論			

授業科目	配当時期 2 年後期 単位数 1 時間数 20	講義担当者 瀬良垣 香 (実務経験有)
成人看護 援助論演習		
授業目標 健康状態に応じた健康問題を解決するための思考過程（看護過程）から必要な援助を考える		
ディプロマポリシーのキーワード		
対象の全人的理解	科学的根拠	看護実践力
探求心	主体的な学び	
授業計画		
< 回 >	< 学習内容 >	< 方法 >
1	ガイダンス、事例紹介、基礎学習	講義・演習
2・3・4	事例のアセスメント演習	演習
5	基本情報とアセスメントの指導	演習
6・7	事例の関連図作成演習	講義・演習
8	関連図の指導	講義
9・10	基本情報・アセスメント・関連図の解説	演習・講義
(実践的な教育内容)		
特定機能病院における長い臨床経験による幅広い分野での看護経験と指導経験に基づき、看護過程と周手術期に特有な看護技術や療養支援に必要な看護技術が習得できるように授業を行う。		
受講上の注意	評価方法	
成人看護援助論演習では、既習科目の基礎的な知識や技術を統合し、適切な看護を提供できるまでの思考を学びます。主体的に授業に参加し、自ら学ぶ努力をしてください。	課題提出：100%	
教科書・参考書等		
参考書	リンダ J.カルベニート.看護診断ハンドブック/医学書院 臨床外科看護総論	

授業科目	配当時期 単位数 時間数	2 年前期 1 15	講義担当者 杉田千明 (実務経験有)
小児看護学概論			
授業目標			
小児看護実践の基礎となる概念と理論をふまえ、子どもの成長・発達を学び、小児看護の役割と機能について理論する			
ディプロマポリシーのキーワード			
対象の全人的理解	人間尊重	科学的根拠	健康状態に応じた看護
多職種連携や協働		主体的に学ぶ	
授業計画			
< 回 >	< 学習内容 >		< 方法 >
1	小児看護の特徴と理念・児童福祉法・母子保健法 子供と家族を取り巻く社会		講義・GW
2・3	子供の成長・発達 小児看護学における発達論		講義・GW
4	新生児期・乳児期の子供の成長・発達と看護		講義・GW
5	幼児期の子どもの成長・発達と看護		講義・GW
6	学童期の子どもの成長・発達と看護		講義・GW
7	思春期の人々の成長・発達と看護		講義・GW
8	終講試験		講義・GW
(実践的な教育内容)			
大学病院と母子保健医療センターでの小児看護の臨床経験に基づき、小児と家族について学び、小児の成長過程と健康増進のための小児看護が理解できるように授業を行う。			
受講上の注意		評価方法	
予習：テキストの該当項目を熟読するとともに、理解できていない箇所を明確にし、また、関連動画がある場合は視聴しておくこと		課題提出；20％	
復習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深めること		終講試験：80％	
教科書・参考書等			
教科書			
奈良間美保他著、系統看護学講座 小児看護学総論、医学書院			

授業科目		配当時期	2年後期	講義担当者
小児看護援助論Ⅰ		単位数	1	杉田千明
		時間数	30	(実務経験有)
授業目標				
健康障害や入院が子供と家族に与える影響について学び、様々な健康の段階・状況にある子供とその家族を対象に、子供の成長・発達を促す看護について理解する				
ディプロマポリシーのキーワード				
対象の全人的理解		看護実践力		
探求心	主体的な学び	科学的根拠		
授業計画				
<回>	<学習内容>			<方法>
1	健康障害や入院が子供と家族に及ぼす影響と看護			講義
2	外来における子供と家族への看護 在宅における子供と家族への看護			講義
3	急性期にある子供と家族への看護			講義・GW
4	慢性期にある子供と家族への看護			講義・GW
5	手術、検査や処置を受ける子供と家族への看護			講義・GW
6	健康障害の症状と看護			講義・GW
7	災害を受けた子供と家族への看護/被虐待児と家族への看護			講義
8	終講試験			
(実践的な教育内容)				
大学病院と母子保健医療センターでの小児看護の臨床経験に基づき、小児の成長・発達ならびに健康状態に応じた日常生活上の援助および検査や処置・治療における適切な援助方法を理解し、実施するとともに小児看護における看護過程の展開技術を習得するための演習を行う				
受講上の注意			評価方法	
小児看護学概論で学習した内容を理解し受講してください。予習としてテキストの該当頁を熟読するとともに、関連動画がある場合は視聴しておくこと。			課題：100%	
教科書・参考書等				
教科書	奈良間美保他著、系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護学 医学書院			
参考書	奈良間美保他著、系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院			

授業科目	配当時期 単位数 時間数	2 年前期 1 30	講義担当者 奥野高子 (実務経験有)
母性看護学概論			
授業の流れ			
母性看護の基盤となる概念や母性看護の対象を取り巻く社会の現状を学び、女性の一生を通じて健康の保持・増進、疾病予防および次世代の健全育成を支援する重要性について理解する			
ディプロマポリシーのキーワード			
専門職としての責任の自覚 看護実践力 主体的な学び 多職種連携			
授業の流れ			
回	学習内容		方法
1	母性看護の基盤となる概念 母性とは 母子関係と家族発達		講義
2	母性看護の基盤となる概念 セクシュアリティ		講義
3	リプロダクティブヘルス ヘルスプロモーション 母性看護のあり方		講義
4	ライフサイクルにおける形態・機能の変化		講義
5	妊娠・胎児の性分化		講義
6	女性のライフサイクルと家族 母性・父性の発達		講義
7・8	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状		講義
9	ライフサイクルにおける女性の健康と看護		講義
10	性成熟期の健康と看護		講義
11	更年期・老年期の健康と看護		講義
12	リプロダクティブヘルスケア 1 家族計画 性感染症とその予防 リプロダクティブヘルスケア 2 HIVに感染した女性に関する看護		講義
13	人工妊娠中絶と看護 喫煙と女性の健康 リプロダクティブヘルスケア 3 性暴力を受けた女性に対する看護		講義
14	児童虐待と看護 国際化社会と看護		講義
15	母性看護における倫理的問題 まとめ		演習・講義
(実践的な教育内容)			
助産師としての豊富な臨床経験に基づき、女性のライフスタイルの特徴や発達課題について理解し、母性看護を展開するために必要な基礎知識が習得できるように授業を行う。			
受講上の注意		評価方法	
受講前に母性看護に関連する解剖生理学について復習しておきましょう		試験：90%	
また、母性の健康が次世代に受け継がれる際の看護のあり方、性の多様性、リプロダクティブヘルスケア等様々なことを学ぶ科目です。常に社会に関心をむける習慣をつけておきましょう		【小テスト：10%】 【終講試験 80%】	
		課題提出物：10%	
教科書・参考書等			
教科書 森 恵美他著. 系統看護学講座. 母性看護学① 母性看護学概論. 医学書院			

授業科目	配当時期 2 年後期 単位数 1 時間数 15	講義担当者 奥野 高子 (実務経験有)
母性看護援助論演習		
授業目標		
周産期にある母子およびその家族を対象とするウェルネス思考をふまえた看護過程展開と周産期ケアに必要な技術を習得する		
ディプロマポリシーのキーワード		
対象の全人的理解 科学的根拠 看護実践力 主体的な学び 探求心		
授業の流れ		
回	学習内容	方法
1	母性看護過程マタニティサイクルにおける看護の特徴 ウェルネス思考の考え方 事例紹介（基礎情報・妊娠経過）	講義
2	妊娠・胎児の身体的健康状態のアセスメント 妊婦の看護にかかわる技術	講義・演習
3	妊婦・胎児の身体的健康状態のアセスメント（解説） 事例紹介（追加情報、分娩経過）	講義・演習
4	妊婦・分娩期のアセスメント 妊婦・分娩期のアセスメント（解説）	講義
5	事例紹介（追加情報：産褥・生後 1 比目） 産褥1日目の褥婦・新生児のアセスメント 褥婦の看護に関わる技術	演習
6	産褥一日目の褥婦・新生児のアセスメント 産褥一日目の褥婦・新生児のアセスメント（解説）	技術演習 講義・
7・8	新生児の看護に関わる技術 まとめ	技術演習
(実践的な教育内容)		
助産師としての豊富な臨床経験に基づき、周産期にある母子およびその家族を対象とするウェルネス思考をふまえた看護過程展開と周産期ケアに必要な技術を習得するための演習を行う。		
受講上の注意	評価方法	
母性看護援助論で学んだ知識を実際の看護展開に活用できるよう、思考過程や技援助技術を習得する科目です。母性看護援助論で学習したことを復習したうえで受講してください。	課題：70% 終講試験：30%	
教科書・参考書等		
森 恵美他著. 系統看護学講座 母性看護学 2 母性看護学各論 平澤美恵子著 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディア		

授業科目	配当時期 単位数 時間数	3 年前期 1 3 0	講義担当者 池内嘉代子 （実務経験有）
看護研究			
授業目標			
看護の実践を科学的に研究していくための研究的視点を持つ意義を理解し、事例研究を通して実践した看護を評価するとともに、論文のまとめ方・発表の仕方を学ぶ			
ディプロマポリシーのキーワード			
看護専門職としての責任の自覚			
探求心を持つ 主体的な学び			
授業の流れ			
回	学習内容		
1	授業ガイダンス 看護研究の意義と目的		
2	看護研究における倫理的配慮、看護研究の概観		
3	研究デザイン 研究計画書		
4	データの収集と分析		
5	論文作成と発表の方法		
6・7	ケーススタディの進め方、纏め		
8～10	看護研究大会参加		
11～14	ケーススタディ計画書作成		
15	担当教員からの指導		
（実践的な教育内容）			
総合病院における病棟勤務経験に基づき、看護研究の基本的な方法論を理解し、演習を行うことで看護研究の基本的な技術が習得できるように授業を行う。			
受講上の注意		評価方法	
看護研究の基礎を学びます。担当教員と相談しながらケーススタディを進めて行きます。自分が行った看護を科学的根拠に基づいたものであるかを振り返り、論理的に文章にまとめる力を身につけるために共にまなびましょう。		提出物：20％ ケーススタディ：80％	
テキスト			
医学書院 看護研究 照林社 わかりやすいケーススタディの進め方 関西看護学生看護研究大会 演題収録			